

地方自治ここにあり 首長インタビュー

# コロナウイルス感染拡大下の始動

## 安全・安心・健康なまちへ



三浦源吾御坊市長

御坊市長 三浦源吾 さん

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により全国緊急事態宣言が発出されていた2020年5月17日、三浦源吾さんは無投票で御坊市長に初当選しました。

新市長三浦さんにとって、この一年はコロナとの戦いであり、向こう10年間の御坊市のまちづくり計画をつくる重要な日々となりました。前和歌山県日高振興局長で行政手腕が期待される三浦市長に危機の時代とまちづくりなどについてお聞きしました。

聞き手は、本研究所周木裕範常任理事です。

### コロナウイルス禍中の市長就任

鈴木：新型コロナウイルス問題は、収束の見通しが立っていません。御坊市民も不安を感じている方が多いと思います。三浦市長はコロナ対策にどのように取り組んできたのか、そこから聞かせていただけますか。

市長：昨年6月11日が初登

庁でした。緊急事態宣言が解除されていたとはいえ、市民の皆さんに消毒液やマスクが十分に行き渡っていない。また地域経済活動も収縮している最中に取りました。その中で、一番に何をしなくてはならないかというところ、当時は10万円の定額給付金の対応を特別体制で人員を配置して対応しているところでした。6月議

会で国からの臨時交付金の活用を何とか間に合わせたという議会に提案させていただけました。国の持続化給付金や雇用調整助成金、それを補完する県の施策を見ながら、市独自として市民が本当に必要な職員みんな

策は何なのかを職員みんな

で考えながら、それぞれの施策を行ってきたところで

国からの交付金を活用して、全市民を対象とした商品券の配布や水道料金の減免などを行いました。地方の飲食店は、当初は持家や家族従業員で何とか持ちこたえてきたと思うのですが、これだけ長期になると飲食店関係の皆さん方も苦しくなってきたり、飲食店の灯を消さないため、国の地方創生臨時交付金を活用させてもらい、今回の第3次では飲食業の支援に重点を置きました。

また、この6月議会において、新たな対応策についても発表します。

鈴木：コロナ対策では、最前線の市町村が大変御苦労し、しばしば右往左往させられています。

市長：そうですね。

鈴木：地域経済、市民の方の暮らし、一番深刻な影響はどういうところに出ていますか。

市長：3密(密閉・密集・密接)を避けるということ

### 目次

地方自治ここにあり 首長インタビュー  
コロナウイルス感染拡大下の始動  
安全・安心・健康なまちへ

御坊市長 三浦 源吾さん…… 1

草の根運動の裏り みんなの願いを持ち寄って

社会福祉法人 桃郷 常務理事 船木 栄子……… 6

# わかやま住民と自治

発行/和歌山県地域・自治体問題研究所  
和歌山市太田2丁目14-9 太田ビル203号  
TEL・FAX 073-488-3127  
jichiken@crux.ocn.ne.jp 2021年7・8月号



御坊市街地

で、いろんな制約をかけた  
いると思います。市主催の  
人が集まるような事業は昨  
年全くできませんでした。  
年が明けて、変異株が蔓延

する中で、今年も御坊市の  
花火をやむなく中止としま  
した。経済活動においても  
70パーセントぐらいの業種  
の方が何らかの影響を受け  
ていると言われていますが、  
地方にも徐々に響いて  
きていると思います。

今、コロナ対策として取  
り組まなければならないの  
はワクチン接種です。我々  
は昨年末から準備してしま  
した。ワクチンのめどが立  
てば7月末までに高齢者接  
種を終えるということで、  
今取り組んでいるところで  
す。とにかくワクチンを十  
分に供給していただき、希  
望するすべての市民の皆さ  
んに1日でも早く打ってい  
く。これしかないと思っ  
ています。

### 災害による犠牲者ゼロ 市民の命と財産を守る

鈴木：市長は、選挙公約の  
1つに、「健康で生き生き  
と安全に、ここに住みたい  
まち」を挙げていました。

三浦市政がスタートして  
一年余り、この春には第5

次の総合計画を策定しまし  
た。御坊市が目指す将来像  
「人と自然が調和し、笑顔  
と活力あふれる御坊くみん  
なで創る、安全・安心のも  
と、健康でいきいきと暮ら  
せるまち」としています。

市長：安全・安心・健康、  
これは最重要テーマだと思  
っています。私のマニフェ  
ストの大きな柱の中にも入  
れさせていただいています。  
市民の皆さんには、ふるさ  
と御坊に愛着を持っていた  
だき、誰もが安全で安心し  
て快適に笑顔で暮らせ、将  
来にわたって健康でいきい  
きと暮らせる。「生まれて  
住んでよかったまち、御  
坊」、「誰もが住みたいまち  
御坊」というのをテーマに  
しています。今回の総合計  
画で、この実現に向けて頑  
張っていききたいと思っ  
ています。

鈴木：京都大学の災害防災  
研究センターの河田先生  
は、災害と、今度の感染症  
は同じだと言っています。  
市長は安心・安全なまちの  
中で、災害に強いまちづく

りを、第一に挙げておられ

るわけですが、南海トラフ  
地震、ゲリラ豪雨とか、  
様々な災害があります。災  
害対策はどうなっております  
か。

市長：お話があったよう  
に、コロナ対策について、  
私は職員に対して大規模災  
害というつもりで取り組ん  
でほしいと伝えていること  
ろです。

また、マニフェストの1  
丁目1番地に、「災害によ  
る犠牲者ゼロを目指し市民  
の生命と財産を守るまち」  
を掲げております。対策と  
して大きなハード事業は、  
平成29年度から3か年計画  
で、津波避難困難地域を解  
消するために防災タワーを  
3つ建てました。これによ  
り津波避難困難地域はすべ  
て解消されました。そして、  
この庁舎も防災拠点という  
ことで実施設計がこの9月  
に終わり建て替えが進んで  
まいります。これが完成す  
れば、大規模なハード事業  
は一応終わるかなと思っ  
ています。

近年、想定外の自然災害、  
一昨年の台風20・21号、24

号のような自然災害が発生  
します。自然災害は防ぐこ  
とはできません。しかし、  
そんな中でも犠牲者を1人  
も出さないということは可  
能だと考えています。建設  
した防災タワーを積極的に  
活用し、市民の皆さんと一  
緒に防災訓練を重ねていく。  
町内会単位での防災訓練に  
加えて、健康づくりと連携

した「防災さんぽ」など、  
市民の皆さん方に気軽に取  
り組んでいただけるよう考  
えています。施設が整備さ  
れても、避難しなければ駄  
目なので、私だけは大丈夫  
という正常化バイアスを市  
民の皆さんの心から取り除  
く取り組みも強力に進めて  
いきたいと考えています。

中央防災会議でも、自ら  
の命は自ら守るというよう  
に、防災対策の方向性も変  
わってきています。避難勧  
告が避難指示に一本化され  
ました。そのことを市民の  
方々に周知徹底して、自分  
の命は自分で守る。そのと  
き、何をやればいいかとい  
うことを一人一人に考えて  
いただき、津波や風水害、



御坊総合運動公園で女性団体によるイベント



土砂災害、各種の災害に対して、地域に応じた防災訓練に取り組んでいきたいと考えております。

**鈴木：**災害は、まず自分の身は自分で守ることが大事だというお話ですが、自らを守れない人もいます。地域の安全を守っていくという意味では、地域力が大事です。

**市長：**そうですね。私もその地域力を期待しているところです。先ほども触れましたが、「災害による犠牲者ゼロを目指し…」と掲げています。防災面から地域力を向上させる町内会単位の自主防災組織など、この活動の強化が一番であると考えています。今回、御坊市自治連合会の自主防災組織の活動を市全体に広げていただければありがたいと大いに期待しているところです。少子高齢化、核家族化で地域的なつながりが希薄化する中で、地域同士の連携強化、災害から命を守る、地域の活動が推進されてきていると感じています。新しい総合計画の中にも、「みんなで創る」という言葉を入れさせていただいています。市役所の我々が行政力を向上させることはも

ちろんですが、地域で活躍されている団体やNPO、地元企業が持つ個性とか技術力をぜひ活用させていただいて、地域ぐるみでまちづくりを進めていく必要があるというふうに考えていますし、また期待もしているところです。

**鈴木：**なるほど。御坊には、祭りのすぐれたコミュニティ力があります。

**市長：**各地域で祭りが盛んで、祭りを中心としたコミュニティが今なお残っています。これは御坊市特有の文化で、地方創生ということでも大変うれしいことです。祭りで培った人と人とのつながり、ふるさとに対する愛着というのを我々行政にも力を貸していただいで、協働でまちづくりに取り組んでいきたいと思っています。

**若者・女性が参画  
活躍するまちへ**

**鈴木：**近年、御坊では様々な分野で若い世代が活躍しています。そうした人た

ちに対する具体的な施策はいかがでしょうか。

**市長：**ワークショップに若い世代の方々が参加してきて御坊のいいところ、御坊をこれからどう良くしていくかという意見を出していただきました。

その意見を実現していくために、総合計画を実施していく。3年間の実施計画をこの秋につくっていくわけです。これから前期事業計画100個のうち、どんな実施計画が出てくるのか楽しみにしているところです。

**鈴木：**若い世代が集う行動するまちづくりを期待します。

若い女性が仕事と子育ての両立ができる生活の場面づくり、どのような施策をお考えでしょうか。

**市長：**子育て支援センターとか、「につこりあ」とか「ファミサポ」など、最近充実した施策ができています。御坊総合運動公園の交流拠点施設での女性団体によるイベント開催など、子育て世代の

方々に様々な機会が横のつながりが生まれています。これを広げていき、今後とも彼女たちのネットワークを生かせるように、子どもを連れて遊びに行きたいと思える環境をつくっていただくと考えております。今後ますます女性の力が重要になってくると思っております、市役所でも女性幹部の登用や、様々なまちづくりの会議の場でも、積極的に女性の登用を行っていきたくと考えています。

**鈴木：**女性の居場所づくり、活躍の舞台はもっと充実してもいいと思います。

**市長：**そのとおりだと思います。

**鈴木：**総合運動公園に若いお母さんたちが集まって、いろんなイベントなんかも開かれていますね。

**市長：**総合運動公園の可能性は限りなくあると思っています。あんなに大きく広い芝生を持つ公園は、昔は考えられなかった。それに遊具も設置した。木製遊具の新設も検討しており、野球場・多目的グラウンド、

歴史館もあり、どこにも誇れるすばらしい総合運動公園になっていくと思います。また野口オートキャンプ場、Siotoープ、Eパークなどの御坊の大切な地域資源とも連携していきたいと

考えています。

### キャンプ場を拠点に 観光まちづくり

鈴木：野口オートキャンプ場は、大ブレイクです。



野口オートキャンプ場

**市長：**野口オートキャンプ場をテーマにして、アウトドアと食を発信したり、キャンプینگカークラブの方々との出会い、つながりを大事にしていく中、全国にSNSで配信してもらう取り組みが非常に功を奏したと思います。100万人が1回来るよりも1万人が100回来るというコンセプトのもと、キャンプ場だけで年間1万人に来ていただけました。昨年はコロナの影響で8000人になったようですが、関係人口を増やすということでは今は一番成果が上がっています。

**鈴木：**施設が充実していることも、人気がある理由だと思います。ポストコロナの新しい生活スタイルが生まれてくる場所と思うのですが。

**市長：**そうですね。長所を伸ばしていくことが重要です。野口オートキャンプ場は電源サイトが広く、全国的にこのように広い電源サイトはないと好評を得ています。それに加えて、プ

イベートのドッグランを新たに作りました。これも大人気で土日はもちろんのこと、平日でも予約でいっぱいで大変好評を得ています。更に電源サイトを増設していくとか、そういうことも考えているところです。

先ほど、先生がおっしゃったように現在、キャンプブームで女子高生や女子大生のキャンプ番組もあるなど、こんな絶妙なチャンスはないと思います。プロモーションのために野口オートキャンプ場と御坊のおしゃれなパンフレットもつくったところです。

**鈴木：**どういうものですか。

**市長：**キャンプینگカーなどで来た人に市内のスーパ―銭湯(宝の湯)とか、紀州鉄道を利用してもらうなど本市の魅力を感じてもらえるものです。そういった観光情報と市内のおいしいB級グルメ、お好み焼き屋、うなぎ屋、そば屋さんなど、いろんなお店を乗せたパンフレットになっています。これはあくまで冊子の1つですが、プロモーションのツールとしてキャンプ関係の会社やいろんなところにPRしていきたいと考えています。

またそれと合わせて、せっかくなにすばらしいキャンプ場があるんだから、地元の小中学生、御坊の子どもたちみんなにキャンプの達人になつてもらいたいと思っています。

**鈴木：**おもしろそうですね。パンフレットを拝見すると、食に関連する情報があります。御坊は、発酵の食文化が生まれ、息づいているまちだと思っています。

**市長：**海あり山あり川ありで食材にも恵まれており、たくさんおいしいものがあります。ふるさと納税制度を活用したキャンプ場のPRについても積極的に取り組んでいきたいと考えています。

野口オートキャンプ場で、御坊の食材を集めて、バーベキューみたいな形で食べていただく。全国から来られる年間1万人の方に、御坊にはこんな農産物、水産物、発酵の商品があるとか、

そういうのもPRできたらすばらしいかな、それをふるさと納税につなげていく。

1つの拠点から広がっていくことがいいのではないか。

キャンプ場にテントを張って特産物を買ったり、PRする。また来られた方に市内の周遊ルートを案内して、例えば水産物では、いけすに入った生の魚を刺身にしてお店で食べていただくことができます。また観光農園には、イチゴの「まりひめ」、スイカの「ひとりじめ」、メロンもあるので観光産業と食を組み合わせたまちづくりを進めていく必要があると考えています。

そういったコアのところから広げていけたらいいかなと思っています。

鈴木：コンセプトは地産地消ですね。

市長：そうですね。白浜や勝浦みたいに温泉はないですが、今言ったように、人が来てくれる場所がある。水産業と農業を結び付けた観光があります。

鈴木：地域にある資源をより発掘していくことが重要

だということだと思えます。紀州鉄道という資源もあります。

市長：これまでも観光面でも積極的にご協力を頂いており感謝しています。紀州鉄道は地元の高校生や市民の皆さんに愛されているというふうに感じていますし、イベントや観光素材になっっています。これからも連携協力して、全国から多くの鉄道マニアの方に集まっていたいただけるような大人気の鉄道にしていければいいかなと思っています。

鈴木：市長は、まちへの愛着と誇りを強調しています。

市長：東洋経済社が発刊している『住みよきデータラ

ンキング』では2年連続、県下1位で、近畿では5位。昨年は大阪市に次いで2位になっっています。御坊市が住みよいまちだということ

を市民の皆さん方にもっと再確認していただきたいと強く感じているところです。

### 500メートル圏内 コンパクトな魅力に目を

御坊は本当に地形が平坦で、ここから500メートル歩けば、お医者さんも学校も買い物する小売店もある。こんなすばらしいところはないんだというのを再実感していただく。そういった取り組みを進めていけたらいいと常々思っているところです。

そういう意味で「健康さ

んぼ」とか、まちなかを歩いてみたりする取り組みを行っていきたい。僕自身も健康に気をつけて結構歩いているのですが、住みやすい

地形的に恵まれた地域であるということ、ことあるごとにアピールしていきたいと思っっています。

まずは、地元の人に愛着と誇りを持つていただかなければ、なかなか都会に出た子どもや孫、知人の方に御坊市の魅力を発信していただき、Iターン、Uターンを実現させることはできないと思っいます。

全体的なことと言うと、財政が厳しい中で10年かけて市民の皆さん方に約束した総合計画を実現していく

ことに尽きると思っいます。

鈴木：500メートルのまち、魅力があります。しかも、すぐそばになだらかな緑の山並み、日高川の流れ、太平洋がある。

市長、もう少しだけお付き合ってください。再生エネルギーと循環型社会に関する取り組みですが。

鈴木：もちろん御坊市も環境低負荷型社会への転換を目指っっています。特に住宅用のLED電球の購入補助とか、自治会が実施する防犯灯のLED化、取替え補助などに3年ぐらい前から取り組んでおり、あと2年で両方とも達成する見通し

です。

昨年、市民や事業所の皆さん方に4R、リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル、この4Rの意識づくりに向けた啓発に加え、最終処分業者に環境保全負担金を求めるという条例を設けました。引き続き、総合計画でも自然と共生する持続社会、SDGsの実現に向けて、市民・事業者・行政が一体となっ、環境

問題に取り組んでいきたいと考えています。

特に、うちには大洋化学株式会社という企業があり、ペットボトルのリサイクルなどにも力を入れています。これを全国にアピールしようと思っっています。

鈴木：向こう10年を見ただけでも、重要かつ難しい問題がたくさんあります。

市長：総合計画を実現するには、持続可能、健全な財政運営に努めること。それに行財政改革や時代に応じた行政組織への転換、それから適正な人員配置が求められてくると考えています。これらの対応には、庁内最上位に位置付けている政策会議の中で適材適所の人材登用をはじめ、行政組織の見直しに取り組んで参りたいと考えています。

いつも私が職員にお願いしているのは、明るく、楽しく、前向きに、(ATM)笑顔を忘れずに一緒に頑張っっていくということ。鈴木：今日は、長時間ありがとうございました。

(写真提供・御坊市)